

# 北海道におけるカラマツ素材及び製材の流通

鎌田 昭吉

道林産課では、昭和44年から、毎年<sup>1-7)</sup>道内のカラマツ素材及び製材の流通調査を実施している。このたび、昭和52年度分（52年4月～53年3月）についてとりまとめられたので、その要点を紹介いたします。

また、参考までに、最近6か年間のカラマツ素材及び製材の価格を、木材市況月報（道林産課調べ）により添付いたします。

第1表 林野別カラマツ素材生産量 (m<sup>3</sup>)

年 度	47	48	49	50	51	52	52年度の内訳	
							自分で生産	下請に出して生産
林 野 別								
国有林(営林局)	10,544	13,774	17,187	34,473	32,527	48,183	23,863	18,320
その他国有林	700	2,425	2,582	2,164	5,263	4,373	1,475	2,898
道 有 林	10,003	20,151	21,074	22,180	20,560	22,783	16,109	6,674
市 町 村 有 林	19,994	21,818	21,730	35,237	29,258	39,482	27,119	12,363
会 社 有 林	19,255	25,624	30,469	23,469	25,728	35,741	19,661	16,080
個 人 有 林	305,195	337,183	260,804	285,663	342,401	355,175	228,373	126,802
そ の 他	2,970	447	1,838	1,667	1,284	151	134	17
合 計	368,661	421,422	355,684	404,853	457,021	505,888	322,734	183,154

## 1. カラマツ素材

### 1.1 カラマツ素材生産量

この1か年間に、多少にかかわらず、カラマツ素材丸太を生産した道内の全生産者（445事業所）からの回答により、52年度中に生産されたカラマツ素材の林野別数量を第1表に、支庁別数量を第2表に示した。

生産業者数については、前年の626から445に減っているが、総生産量は51年度の11%増の506千m<sup>3</sup>となっており、一事業所あたりの生産量が増加の傾向を示している。

林野別にみると、国・道・市町村・会社・個人有林、それぞれからの出材がおしなべて順調に伸びている。

支庁別生産量では、網走（全道の29.4%）、十勝（26.4%）、上川（14.1%）の3支庁で、約70%を占めていることは、ここ数年来変わりが無い。空知、釧路、胆振の伸びが著しい反面、後志、根室、宗谷はかなり落ち込んでいる。

### 1.2 素材の径級構成

丸太のまま利用されるものや、製材されるものなどを全部含めた素材の径級別生産量の割合を、第3表に

第2表 支庁別カラマツ素材生産量 (m<sup>3</sup>) 及び生産業者数

支 庁 別	区 分	47年度	48年度	49年度	50年度	51年度	52年度	
		生産量	生産量	生産量	生産量	生産量	生産量	業者数
渡 島	島	7,249	11,780	6,663	8,643	9,851	8,447	23
後 志	山	2,325	2,870	4,163	2,905	5,174	7,105	35
胆 振	志	19,041	23,650	9,943	20,414	26,177	14,412	18
日 高	振	14,183	29,490	24,255	17,232	18,385	27,654	20
空 知	高	17,356	6,500	3,505	2,215	4,131	4,422	14
上 川	狩	1,196	3,880	3,743	1,978	4,776	6,305	7
留 萌	知	24,338	20,250	11,812	25,355	32,972	39,046	46
網 走	川	87,646	52,000	31,153	51,383	45,879	71,429	54
十 勝	萌	1,158	2,270	1,624	1,808	1,854	2,603	5
釧 路	谷	2,406	2,650	1,792	278	486	90	3
根 室	走	61,220	83,080	69,576	106,799	135,230	148,487	60
合 計	勝	102,472	153,400	160,698	122,250	130,003	133,577	122
	路	9,243	12,590	10,734	16,711	23,048	30,253	29
	室	18,858	17,010	16,020	26,882	19,055	12,058	9
	合 計	368,661	421,422	355,684	404,853	457,021	505,888	445

示した。

径級14cm未満の小径木が、依然として約60%を占めている。径級20cm以上のものは約9%で、年々わずかながら減少の傾向を示している。つまり、径級20cm未満の細い丸太の占める割合が徐々に増えている

第3表 カラマツ素材の径級別割合 (%)

年 度		47	48	49	50	51	52
径級(cm)	7	14.9	16.7	16.5	21.8	18.6	19.6
	8	38.9	34.5	37.8	39.8	41.5	39.8
	14	33.7	35.0	33.3	28.4	30.0	31.4
	20	11.3	12.7	11.4	9.2	8.5	8.4
	30	1.2	1.1	1.0	0.8	1.4	0.7
合 計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

ことが分る。

1.3 素材の用途別・販売別・地域別出荷量

最近6カ年間の推移、並びに52年度の内訳は、第4表のとおりである。

用途別には、坑木の出荷量の伸びが目目されるが、これは52年度の坑木総需要量の58.5%を占め、針葉樹坑木の93%となっている。杭・足場丸太は年々減少の傾向を示し、パルプチップ用は横ばいである。

販売先別では、道森連扱い(74組合)が、前年度の54%増をみたことが大きな動きである。

地域別では、道内消費が約99%を占め、丸太の移出量は1%程度にすぎないことは変りがない。

2. カラマツ製材

2. カラマツ挽き立工場数

第5表に示したとおり、53年3月末現在における道内の製材工場数858工場(前年889工場)のうち、カラマツ材を多少なりとも挽き材した工場の数は162工場(前年172工場)である。

数のうえでは10工場の減となっているが、一工場あたり消費量が増え、なかでも製材出力階層75KW以上

第5表 カラマツ挽き立工場の出力階層別工場数(年度末)

年 度	製材設備出力 (KW)	製材工場数 (A)		カラマツ挽き立工場数 (B)		比率 B/A (%)	
		51	52	51	52	51	52
7.5	~ 22.5	25	24	23	23	92.0	95.8
22.5	~ 37.5	80	67	36	26	45.0	38.8
37.5	~ 75.0	297	281	58	48	19.5	17.1
75.0	~	487	486	55	65	11.3	13.4
合 計		889	858	172	162	19.3	18.9

第4表 素材の用途別・仕向先別・地域別出荷量 (m³)

用途別		製材	坑木	杭・足場丸太	パルプチップ	その他	合計
出 荷 先	年 度	159,817	70,702	36,012	79,743	15,169	361,443
	47	213,378	59,797	37,092	89,463	19,750	419,480
	48	128,282	72,715	28,028	105,790	18,233	353,050
	49	132,345	111,274	20,426	99,410	26,360	389,815
	50	176,576	122,163	10,914	103,461	27,227	440,341
	51	190,807	146,858	10,580	118,472	35,394	502,111
構成比率 (%)	47	44.2	19.6	10.0	22.1	4.2	100.0
	48	50.9	14.3	8.8	21.3	4.7	"
	49	36.3	20.6	7.9	30.0	5.2	"
	50	34.0	28.5	5.2	25.5	6.8	"
	51	40.0	27.8	2.5	23.5	6.2	"
	52	38.0	29.2	2.1	23.6	7.0	"
52年度の内訳	自家使用	91,586	9,921	66	33,104	1,861	136,538
	直販	61,434	67,021	4,919	31,979	14,001	179,354
	商社集荷	18,290	54,893	3,235	23,921	11,076	111,415
	道森連	19,497	15,023	2,360	29,468	8,456	74,804
	支庁	175,195	31,605	4,864	90,272	17,718	319,654
	他支庁	13,639	115,002	5,716	28,200	13,741	176,298
	道内計	188,834	146,607	10,580	118,472	31,459	495,952
	東京	100					100
	中京・静岡	1,195	251				2,696
	阪神・その他	678					878
道外計	1,973	251			3,935	6,159	

の大型の工場が10工場増えてい

る。この大型工場の増えた理由の一つは、ソ連産カラマツの大幅な輸入増によるものである。

ついで、カラマツ製材生産量の階層別に分類してみると、カラマツ製材生産量が、年間100m³未満の工場が42工場(一工場平均48m³/年間)、同じく100~500m³は61工場(同平均246m³/年間)、500~1,000m³は21工場(同平均711m³/年間)、1,000~3,000m³は20工場(同平均1,867m³/年間)、3,000~5,000m³は14工場(同平均3,845m³/年間)、5,000m³以上は4工場(同平均8,107m³/年間)である。

3,000m³/年間以上の大規模な

第6表 製材用カラマツ素材の径級割合 (%)

年 度	47	48	49	50	51	52
径級(cm)						
～ 7	6.3	5.5	6.2	9.7	8.4	6.9
8 ～ 13	35.9	31.7	32.8	42.6	33.7	35.0
14 ～ 18	42.2	43.9	43.4	34.5	39.3	39.8
20 ～ 28	13.8	17.5	16.0	11.9	16.5	15.6
30 ～	1.8	1.4	1.6	1.4	2.1	2.7
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

カラマツ専門びき工場は18工場で、全道カラマツ製材生産量の約56%を占めている。

### 2.2 製材用カラマツ素材の径級構成

製材用に向けられた原木の径級別割合を、第6表に示した。

径級7cm未満のダンネージ用小径木が減少の傾向を示し、反面、径級30cm以上の大径木の占める割合がやや増えてきている。

しかし、依然として径級20cm以上の中・大径木は全体の18%程度にすぎない。

### 2.3 カラマツの製材生産量及び出荷量

全道のカラマツ原木消費量、製材生産量及び製材出荷量の推移を、第7表に示した。

ソ連産カラマツ原木の消費量が、前年の2.4倍と大幅に伸びており、ここにも「円高ドル安」の影響が反映している。

全道ひとまとめにしてみた統計数値による、カラマツの製材歩止りは、45年度から52年度の69.9%（45年

第7表 カラマツ原木消費量、製材生産量及び製材出荷量 (m³)

年度	原木消費量	製材生産量	製材出荷量	同左、道内出荷量	同左、道外出荷量
47	188,865	135,334	134,586	51,216	83,370
48	197,843 (2,603)	137,067 (1,806)	135,299 (1,804)	57,665 (1,186)	77,634 (618)
49	149,555 (7,566)	103,188 (5,346)	102,684 (4,855)	42,253 (1,879)	60,431 (2,976)
50	159,466 (10,287)	110,038 (6,623)	110,301 (6,481)	48,858 (4,827)	61,443 (1,654)
51	203,559 (5,844)	143,899 (3,882)	144,840	55,029	89,811
52	225,711 (14,243)	155,403 (9,658)	153,093	64,265	88,828

注) 下段( )は、ソ連産カラマツで内数

度)、71.8, 71.7, 69.0, 69.0, 69.0, 70.7, 68.9% (52年度)となっている。

なお、52年度におけるカラマツ製材の比重を全道的にみると、カラマツは、N・L込製材用総原木消費量(5,044千m³)の約4.5%、総製材生産量(3,168千m³)の約4.9%を占めるようになってきた。

### 2.4 支庁別にみたカラマツ製材工場数及び生産量

第8表 支庁別カラマツ挽き立工場数及び原木消費量・製材生産量・製材出荷量

支 庁 別	製材工場数	カラマツ挽き立工場数	カラマツ挽き立工場の分(カラマツのみ)					
			原木消費量 (m³)		製材生産量 (m³)		製品出荷量 (m³)	
			道産材	ソ連材	道産材	ソ連材	道内	道外
渡島	69	40	7,076	3,010	4,891	2,071	6,524	438
後志	22	11	2,386	0	1,830	0	1,830	0
胆振	38	9	10,585	0	7,539	0	5,090	2,398
日高	46	11	7,245	345	4,666	205	4,203	604
石狩	45	1	7	0	4	0	4	0
空知	39	6	6,052	0	3,450	0	3,362	0
上川	61	5	5,985	0	3,622	0	1,820	2,109
留萌	138	13	13,604	3,561	9,646	2,456	8,764	2,516
宗谷	21	3	18	3,100	12	2,015	1,831	196
網走	19	6	0	3,086	0	2,088	2,068	0
十勝	154	19	69,683	218	50,117	139	11,159	38,596
釧路	115	27	69,254	773	47,251	584	12,315	34,657
根室	69	5	8,416	150	5,413	100	2,570	2,735
根室	22	6	11,157	0	7,304	0	2,725	4,579
合 計	858	162	221,468	14,243	145,745	9,658	64,265	88,828

支庁別にみたカラマツ挽き立工場数、原木消費量、製材生産量及び製材出荷量を、第8表に示した。カラマツを挽き立する工場は、以前から全道各地に分布している。

工場数では、渡島支庁が40工場と一番多いが、一工場あたり原木消費量は252m³/年間と少なく、カラマツの賃挽き工場やソ連産カラマツを挽く工場が多く含まれている。

渡島にかぎらず、後志・胆振など道南地域では、小規模な工場か、カラマツ材の挽き立量が少ない工場が多い。この地域ではエゾマツやトドマツ材などの優良針葉樹材に乏しいので、カラマツ製材も建築用材(主として土台用)として比較的多く使われており、土木用、パレット材なども大部分が地場消費されている。

カラマツ素材の主産地である道東の網走、十勝で

北海道におけるカラマツ素材及び製材の流通

第9表 カラマツ製材品の用途別、仕向先別、地域別出荷量

(m<sup>3</sup>)

用途別		建築用	土木用	梱包材	製材組板	ダブネージ	ドラム材	パレット材	その他	合計	
出荷先別											
47年度		42,149	21,097	30,919	1,942	18,139	6,775	9,434	4,131	134,586	
48年度		40,687	19,612	38,979	5,639	11,789	4,124	8,758	5,711	135,299	
49年度		28,874	11,315	25,058	6,690	16,407	1,626	11,075	12,639	102,684	
50年度		30,095	14,620	30,730	4,638	14,874	2,106	9,721	3,517	110,301	
51年度		27,849	18,729	45,291	4,885	24,828	3,245	12,340	7,673	144,840	
52年度		28,155	17,942	46,794	6,859	27,810	3,556	13,684	8,293	153,093	
構成比率(%)											
47年度		31.3	15.7	23.0	1.4	13.5	5.0	7.0	3.1	100.0	
48年度		30.0	14.5	28.8	4.2	8.7	3.0	6.5	4.2		
49年度		28.1	11.0	24.4	5.5	16.0	1.6	10.8	2.6		
50年度		27.2	13.3	27.9	4.2	13.5	1.9	8.8	3.2		
51年度		19.2	12.9	31.3	3.4	17.2	2.2	8.5	5.3		
52年度		18.4	11.7	30.6	4.5	18.2	2.3	8.9	5.4		
52年度の内訳	仕向先別	自家消費	4,020	451					75	4,546	
	直販	17,125	8,861	5,137	1,360	3,198	34	3,865	3,172	42,752	
	商社集荷	5,408	7,183	32,267	5,124	13,680	3,293	8,363	3,259	78,577	
	道森	1,602	1,447	9,390	375	10,932	229	1,490	2,185	27,650	
	出荷地域別	白支庁	19,271	8,341	613	734	985	160	4,121	3,205	37,430
	他支庁	5,932	4,956	3,618	3,258	1,724	327	3,078	3,942	26,835	
	道内計	25,203	13,297	4,231	3,992	2,709	487	7,199	7,147	64,265	
	地域別	東京	715	400	1,146	250	263	79	425	424	3,702
	中京・静岡	2,000	3,935	40,504	2,580	23,582	2,978	5,774	690	82,043	
	阪神・その他	181	310	566	629	629	123	123	32	1,841	
道外計	2,952	4,645	42,563	2,867	25,101	3,069	6,485	1,146	88,828		

第10表 カラマツ、エゾ・トドマツ丸太と製材の価格(1年間の平均価格)

(円/m<sup>3</sup>)

地域	年次	カラマツ丸太			エゾ・トドマツ丸太		カラマツ製材		エゾ・トドマツ
		20~28cm ×3.65m	14~18cm ×3.65m	8~13cm ×3.65m	30~38cm ×3.65m	20~28cm ×3.65m	正角 10.5cm ×3.65m	押角 10.5cm ×3.65m	正角 10.5cm ×3.65m
		品等込	品等込	品等込	品等込	品等込	I等	I等	I等
旭川	48	13,200	12,550	11,480	25,720	21,100	—	—	42,920
	49	13,790	13,030	12,030	23,570	20,620	27,210	17,880	39,960
	50	12,510	11,300	10,380	20,141	19,050	35,310	19,330	35,690
	51	14,600	13,530	12,780	23,630	22,630	28,530	23,200	41,680
	52	14,260	13,120	12,240	27,100	26,360	32,860	26,060	46,440
	53*	13,575	12,160	11,290	22,450	21,400	29,700	22,500	40,940
十勝	48	13,380	11,970	9,480	24,310	23,210	—	—	39,410
	49	13,100	12,100	10,270	21,900	20,220	24,230	17,960	34,280
	50	12,000	10,760	8,880	19,900	19,030	23,670	18,430	31,870
	51	13,020	11,410	9,820	23,810	23,140	26,410	21,110	38,450
	52	14,300	12,820	11,830	26,210	25,220	30,620	24,720	42,100
	53*	13,075	11,975	11,175	22,475	21,780	30,500	22,660	40,140
札幌	48	15,000	14,040	13,680	24,960	23,970			43,500
	49	14,310	13,200	12,030	22,050	21,180			40,200
	50	13,380	11,970	10,920	21,280	20,460			38,200
	51	14,760	12,960	11,880	24,420	23,670			44,300
	52	14,760	12,960	11,880	26,960	26,100			48,850
53*	14,700	12,900	11,800	23,850	22,930			45,875	

注) 丸太：工場渡、流通材は発駅工場渡 \*：53年1月から8月までの平均価格  
製材：工場渡、卸売(札幌は小売)

は、大型のカラマツ専門びき工場が多く、製品は地場消費される量も多いが、なんといっても土木用材（主として押角）や梱包材やダンネージなどの本州移出が主体となっている。両支庁で、道外移出量の約82%を占めている。

また、ソ連産カラマツは、港のある渡島、留萌、宗谷（道産カラマツはない）に入ってきているが、内陸の上川管内にまでその足が伸びてきていることが注目される。

## 2.5 製材品の用途別・販売先別・仕向け地域別出荷量

最近6カ年間の推移、並びに52年度の内訳は、第9表に示した。用途別出荷量では、建築用材と土木用材が年々減少の傾向を示しているが、その低減率はゆるやかになっている。これに反して、ダンネージや製函・仕組板が順調に伸びてきている。

販売先別出荷量では、自家使用が年々減少し、これに替って道森連扱い（19組合工場）が伸びてきている。そのシェアは、自家使用3%、直接販売28%、商社・集荷業者51%、道森連18%となっており、依然として商社・集荷業者の力が強い。このことは、梱包材やダンネージやドラム材・パレット材など本州移出の分野において、とくに顕著である。

出荷地域別では、道内42%、道外58%となっており、ここ数年来大きな変化はみられない。

本州向けでは、相変わらず京浜地方が約92%を占め、その他向けは伸び悩んでいる。全道のカラマツ製材品の約54%が京浜地域に出荷されており、なかでも梱包材の約87%、ダンネージの約85%、ドラム材の約84%が京浜に流れている。

道内消費される主なものは、地場消費（自支庁内出荷）型の建築用材と土木用材であるが、その用途区分の全道平均は、つぎのとおりである。

	用途	比率(%)
建 築 用	土 台 用	41.0
	柱 用	9.2
	板（小輻板含む）	18.1
	小 屋 組 材	17.1
	タ ル キ	14.6
土 木 用	コンクリート 砕用	18.0
	土 留 用	38.8
	そ の 他	43.2

## 3. カラマツ素材及び製材の価格

参考までに、素材及び製材の生産地域である本別（十勝）市場と、素材の消費地・製材の生産地域である旭川市場と素材及び製材の消費地域である札幌市場の年平均価格を第10表に示した。

## 文 献

- 1) 道林野産課：カラマツ製材について（45年度分）本誌 6月（1972）
- 2) 山崎徹夫：カラマツの利用実態（46年度分）北方林業・ 2月（1973）
- 3) 菅野：カラマツの流通調査（47年度分）本誌，10月（1973）
- 4) 鎌田：北海道におけるカラマツ素材及び製材の流通調査（48年度分）本誌，2月（1975）
- 5) 本江：北海道におけるカラマツ素材及び製材の流通（49年度分）本誌，11月（1975）
- 6) 鎌田：北海道におけるカラマツ素材及び製材の流通（50年度分）本誌，12月（1976）
- 7) 菅野：北海道におけるカラマツ素材及び製材の流通（51年度分）本誌，12月（1977）
- 8) 道林野産課：木材市況月報，昭和48年～53年

- 指導部 調査科 -  
（原稿受理 昭和53.8.23）